

# 日本生活体験学習学会

## 第25回研究大会（大分大会）大会要項

この度、日本生活体験学習学会第25回大会を大分大学で開催いたします。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、2023年5月から5類感染症となり、学校教育においても、社会教育においても様々な対応が求められています。とりわけ、学校では、ICTやAIの活用を推進する一方で、様々な行事や体験活動などが制限されており、子どもたちの体験の不足に起因する様々な問題や課題が生じています。それらを解決するために、学校教育及び社会教育において、今後の生活体験学習の在り方を模索することはとても重要です。

そのような中、第25回研究大会は、昨年度に引き続き研究大会を対面で実施する予定にしています。午前中に4つの自由研究発表を行い、午後からは「生活体験の再創造」と題して公開シンポジウムを行う予定です。

より多くの方々に大分県にお越しいただき、会場で皆様とお会いし、研究を深められることを大会関係者一同心より楽しみにしております。

第25回研究大会（大分大会）実行委員長  
伊東 俊昭（佐伯市立明治小学校）

1. 期 日 2023年10月14日（土）

2. 会 場 <研究大会> 大分大学 教育学部  
〒870-1192 大分県大分市旦野原700 大分大学旦野原キャンパス

3. 日 程

10/13 (金)						(理事会) 15:00~17:00	■懇親会 18:00~
10/14 (土)	■受付 9:00~	■開会 行事 9:20~	■自由研究 発表 9:30~11:30	■昼食・休憩 11:30~12:30	■総会 12:30~ 13:45	■公開 シンポジウム 14:00~17:00	■閉会 17:00~

4. 参加費 <研究大会> 会員：1,500円 非会員：500円  
<懇親会> 5,000円

5. 懇親会 日時：10月13日（金）18:00~  
会場：雪うさぎ（大分県大分市大道町1-3-25）  
※懇親会参加希望者には、後日、改めてご案内をお送りします。

6. 申し込み方法

研究大会ならびに懇親会に参加を希望される方は、事前に参加申し込みが必要です。

下記URL・QRコードより、**2023年9月15日（金）まで**にお申し込みください。

- 日本生活体験学習学会第25回研究大会（大分大会）  
<https://forms.gle/Wi69S2mkiJNrBPkq8>



10月14日(土)

■ 9:00~ ■■■ 受付

---

■ 9:20~9:30 ■■■ 開会行事

---

■ 9:30~11:30 ■■■ 自由研究発表

---

(教育学部第一会議室)

個人発表 20分(15分発表 5分質疑) / 共同発表 30分(25分発表 5分質疑)

\* 共同研究の発表者には○を付しています。

司会：末寄 雅美(西南女学院大学短期大学部) 伊東 俊昭(佐伯市立明治小学校)

9:30~9:50 1970年代、子どもはどのような遊びをしていたのか

—ある女兒の日記を資料として—

横山 正幸(福岡教育大学名誉教授)

9:50~10:10 福岡県における通学合宿の効果(鍛ほめ福岡メソッド)に関する一考察  
~遠賀町活動体験事業を事例として~

山田 明(九州共立大学)

10:10~10:30 保育士養成課程における保育内容・領域「環境」の指導法とその課題  
—カイコを教材として—

森川 美保(季の野の台所・日本福祉大学(非))

10:30~11:00 ポストコロナ社会における「親の保育参加/家庭との連携」に関する考察  
—保育者対象の質問紙調査の結果から—

○永田 誠(大分大学)

○菅原 航平(福岡県立大学)

大村 綾(西九州大学短期大学部)

11:00~11:30 総括討議

■ 12:30~13:45 ■■■ 総会

---

(地域交流室)

## 「生活体験の再創造」

新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認されてから 3 年が過ぎました。この間、私たちの生活は大きく変化し、それに伴い子どもの生活や体験にも大きな影響を及ぼしました。本学会でもその変化や影響を把握するため、第 23 回研究大会公開シンポジウムにて「新型コロナ感染症と生活体験学習」をテーマにモノグラフ的研究を行いました。それに引き続き、第 24 回は、「生活体験学習の再定義～生活体験の変化と生活体験学習の可能性～」というテーマを掲げ、各分野の実践家の報告と研究課題をもとに議論を重ねてきました。これまでコロナ禍において不要不急の言葉の下で、子ども達の生活は制限され、育ちに必要な生活体験の機会が縮小し、体験格差が生じています。これを受けて、今後は子どもに必要な直接体験をどのように補っていくのか。あるいは新たに求められる生活体験とはどのようなものか。または、今後求められる生活体験学習とはいったいどのような内容なのかといった議論が求められます。

そこで今回のシンポジウムでは、これまでの議論を踏まえた上で、各分野の研究者・実践者を招き、コロナ禍により生じてきた新たな課題、コロナ禍以前からあった課題の両方の視点を踏まえて生活体験学習の再創造に向けた論点整理をしていきます。

### 【登壇者】

司会進行：山下 智也（北九州市立大学）

要旨説明：川邊 浩史（西九州大学短期大学部）

話題提供：

①石村 秀登（熊本県立大学）

生活への意欲を引き出す場を創る（学童保育の立場から）

②川邊 浩史（西九州大学短期大学部）

障害児とその保護者における生活体験の持つ意味について（障害児支援の立場から）

③秋葉 祐三子（あそびとまなび研究所）

全ての子どもたちの日常を守る「子どもの居場所」活動と取り残されがちな子どもの体験格差解消に向けた活動の実際（子どもの居場所活動の立場から）

課題提起：恒吉 紀寿（北九州市立大学）

指定討論：山岸 治男（別府溝部学園短期大学）

古賀 倫嗣（熊本大学名誉教授）

